

中国と日本の交流 | 順天堂東京江東老人センターの浅岡大介教授と順天堂大学の王暁念教授
が南京医科大学第四附属病院を訪問

南京医科大学第四附属病院

2024年9月23日 07:43



9月21日、順天堂大学東京江東成人病センター消化器内科部長、順天堂大学医学部腸内フローラ研究講座副代表、順天堂大学消化器内科学教授、順天堂大学国際交流センター教授の浅岡大介氏が登壇した。、早稲田医科大学客員教授の王仙念氏が南京医科大学第四附属病院を訪問した。





浅岡大介教授と王晓念教授は同病院の外来部門、老年内科、消化器科、内視鏡センター、インターネット病院などを訪問し、病院発展や規律構築などについて深い交流を行った。



南京医科大学第四附属病院は今後も国際学術交流を強化し、人材チームの構築を強化し、世界の先進医療技術と健康管理モデルを総合的に学び、病院の質の高い発展を支援し、高品質な病院となるよう努めてまいります。高度な研究指向の教育病院。

終わり

編集者 | ヤン・ジンイー

写真 | シー・ペンジン

編集者 | ダイ・ペン

レビュー | 鍾治凱

「中日消化器・腫瘍学学術フォーラムおよび高齢者継続医療集学的診断・治療(MDT)管理勉強会」が無事開催されました

南京医科大学第四附属病院

2024年9月22日 23時48分



9月21日、南京医科大学第4附属病院で国内外の専門家を招いて「中日消化器病学・腫瘍学学術フォーラムおよび老年期継続医療集学的診断・治療(MDT)管理研究授業」が盛況に開催された。消化器病学、腫瘍学、老年医学の分野で、日本から浅岡大介教授と王暁念教授を含む複数の分野の多くの著名な教授が特別に招待され、世界の新たな注目点や困難な問題について広範かつ詳細な、これらの分野における中国と日本の協力を促進し、消化管腫瘍の標準化された診断と治療を改善し、成人病の学際的な包括的な治療モデルを探求することを目的としています。



殷曉龍、南京老人医学会第一評議會會長、張立娟、南京医科大学第四附属病院党委員会書記、張濤、南京医科大学附属邵一病院副院長、医科大学副院長江蘇省醫師会老年医学支部、天順天 東京の江東老人医療センター消化器科部長で順天堂大学医学部腸内フローラ研究講座副代

表の浅岡大介氏、順天堂大学医学部消化器科教授の王賢念氏会議には順天堂大学、順天堂大学国際交流センター教授、早稲田医科大学客員教授、『実践老年医学』編集部部長の杜志波氏をはじめ、国内外から招待された多くの専門家が出席した。この会議は、南京医科大学第四附属病院の文豪院長が議長を務めた。





順天堂大学東京江東老人センター消化器内科部長、順天堂大学大学院医学系研究科腸内細菌叢研究講座副代表浅岡 大介 教授





浅岡大介教授は、『人生百年—超高齢社会を生き抜く知恵』について深い洞察をもたらし、超高齢社会における寿命の延長と生活の質の向上における日本の経験を紹介し、共有しました。最新の研究では、アクティブ・エイジングの重要性を強調し、浅岡大介氏が共有するサバイバルの知恵は、健康、社会参加、生涯学習など多くの側面をカバーし、超高齢社会において人々がより健康で、より価値ある生活を送ることを目指しています。社会。

王暁念教授(順天堂大学消化器内科学教授、順天堂大学国際交流センター教授、早稲田医科大学客員教授)



王曉念教授は、多くの分野における伝統的な中国医学と西洋医学を統合した治療実践の独特の利点と重要な有効性を共有し、胃粘膜細胞の損傷と胃腸の損傷と修復メカニズムに関する最新の研究を紹介し、共有しました。その中には西洋医学の融合の成果、アトピー性皮膚炎の治療に

効果のある養心茶、肝疾患、風邪症候群、メタボリック疾患、うつ病、膠原病、腫瘍、不妊症に効果のある養心茶、桂津明精などの効果的な新伝統薬が含まれています。漢方薬の調合。中医学は中華民族の宝であり、中医学と西洋医学を融合させた治療実践を学ぶことは、伝統文化の継承と革新でもあります。学習を通じて、中医学の哲学的考え方や治療法をより深く理解することができますとともに、中医学と現代科学技術の融合を探求することもできます。

学際的な学術交流